



お茶の水女子大学 グローバルCOEプログラム 格差センシティブな人間発達科学の創成 ニュースレター 第8号



- 2面 国際シンポジウム／JICA 教育研修セミナー
- 3面 基礎問題プロジェクト
- 4面 公開セミナー／公募研究報告会／リサーチ・アシスタント研究報告会
- 5～7面 イベント・活動一覧(2007～2011年度)
- 8面 成果出版物一覧(2007～2011年度)

拠点リーダー挨拶

2007年から5年間にわたって事業を遂行してきたお茶の水女子大学グローバルCOEプログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」が、まもなく終了します。

グローバルCOEプログラムは国際的な意味での人材の吸引力をもった拠点形成を目的としていますので、高度な研究プロジェクトを走らせるのは当然のことです。しかし、その上で、ポストクや大学院生などの若手研究者の育成と教育に、第一義的な重点を置いて取り組んできました。具体的な取り組みは、リサーチ・アシスタントの雇用、公募研究、海外学会や調査への派遣、英語論文作成・発表支援、各種セミナー

や国際シンポジウムの開催など多岐にわたります。

プログラムの終了後は、残念ながら、これまでのように毎年1億円規模の財源をもって若手研究者の育成を継続する余裕はありません。この規模での事業展開が可能かどうかは、もっぱら国の政策に依存します。そして、再度残念ながら、この稿を書いている時点でグローバルCOEプログラムの後継プログラムが立ち上がるかどうかは定かではありません。

ただ、国内外の教育研究拠点と、本学大学院人間発達科学専攻が競っているだけの充実した基盤が構築された——少なくともその種は蒔かれたと

言っていると思います。この種を大切に育てていくことが私たちの使命だと思います。

事業の遂行にご尽力くださったすべての皆様に、感謝を申し上げます。



拠点リーダー 耳塚寛明

JELS シンポジウム「親の教育戦略——香港・中国・日本」

2011年2月24日(木)、教育・社会的格差領域 JELS (青少年期から成人期への移行についての追跡的研究) は、プロジェクトが行ってきた調査をもとにシンポジウムを開催しました。2010年に香港で実施した小中高生および保護者質問紙調査の結果も取り入れ、日本と香港、さらに中国大陸における親の子どもへの教育投資戦略について研究報告を行いました。香港の現状と調査

結果について、香港大学教育学院教授の程介明氏と助教の江婉愉氏がそれぞれ報告しました。

香港、中国大陸および日本のデータ分析から、社会階層の高い親ほど子どもの教育達成が有利になるよう戦略的に学校外教育を利用すること、最初の選抜が行われる時期の違いによって学校外教育に投資する時期が異なることなどの結果が報告されました。参加者

(約20名)からも多くの質問が寄せられ、活発な意見交換の場となりました。



第5回国際シンポジウム「学力格差と教育政策——香港・上海・日本のPISA結果から」

【日時】2011年9月25日(日) 12:40～15:40

【会場】お茶の水女子大学 共通講義棟 2号館 201号室

【使用言語】日本語、中国語(同時通訳)

「家庭の要因が学力に及ぼす影響：香港 PISA 結果から」何瑞珠(香港中文大学)

「PISA2009の上海結果とその関係要因」朱小虎(上海教育科学研究院 PISA 研究センター)

「PISA から日本の学力格差をみる」垂見裕子(お茶の水女子大学)

指定討論者：志水宏吉(大阪大学)

司 会：耳塚寛明(お茶の水女子大学)

日本教育社会学会(第63回大会)との共催により、第5回国際シンポジウムを開催しました。冒頭で上海と東京の小学校の映像が上映された後、香港・上海・日本の各研究者がPISA(OECD生徒の学習到達度調査)データを用いて、それぞれの社会における中高生の学力(読解力)格差の様態とメカニズムを分析し、政策的なインプリケーションを示しました。

何氏はまず香港社会の概況、PISA2009における香港の中高生の成績、読解力に対する家庭の社会・経済・文化的背景指数の効果等を紹介し、保護者質問紙調査から得たデータを用いて、中高生の読解力に対して家庭的要因が及ぼす影響を検証しました。香港では親の関与がマイナスに働くとの分析結果に、参加者から大きな関心が寄せられました。

朱氏は上海の学校制度と教育の概況、

PISA参加の目的を簡潔に紹介した後、PISA2009に表れた上海生徒の読解力の国際的到達度、男女生徒の読解力の差、生徒の読書頻度と学習におけるストラテジーなどの分析結果を報告しました。PISA2009の結果をもたらした要因としては、公的教育予算の大幅増、カリキュラム改訂、低位校への支援、教育現場の研究・研修活動の効果、厳しい受験競争等が挙げられました。

垂見氏はまず学習方略の概念、PISAで測られる学習方略とは何か、なぜ学習方略が大切かを説明した後、読解力に対する家庭的背景や3種類の学習方略の影響について詳細に検証しました。家庭の資源は上位層の子どもの学力に直接影響すること、家庭の資源が欠けている層の子どものために学習方略の有無の影響が大きいことなどの結果が示され、下位層の子どものための学習方略習得の指導が学力格差の縮小につ

ながるのではないかと提言がなされました。

指定討論者の志水氏が報告者への質問を提起し、報告者と司会を交えた熱い議論が交わされました。200人近い参加者を得て、PISAをめぐる関心の高さが示されたシンポジウムでした。



JICA 中西部アフリカ幼児教育研修セミナー

中西部アフリカのフランス語圏4ヵ国(カメルーン、セネガル、マリ、ブルキナファソ)の教育行政官・視学官、教員養成校の教員・研究者計10名を招き、4回にわたる国際セミナーを実施しました。これは、お茶の水女子大学とJICAの共同事業である「中西部アフリカ幼児教育研修」の一部として行われたものです。「セネガル・マリにおける幼児教育政策と改革」(2011年11月30日(水))、「カメルーンにおける幼児教育政策の動向」「ブルキナファソにおける幼児教育政策の課題」(2011

年12月1日(木))を開催し、各国の幼児教育・ECD(Early Childhood Development)政策に関してディスカッションを行いました。特に、幼児の発達を総合的に支援していく制度構築に関する問題、幼児教育・ECDセンター普及の格差に関する問題、などが話し合われました。10名の参加者は、約3週間にわたって幼児教育・ECDに関するワークショップや講義、施設見学などを行った後、今後の各国の改革に関するアクションプランを作成しました。2011年12月20日(火)に行われた国

際セミナー「中西部アフリカにおける幼児教育のめくえ」のなかでこのアクションプランの発表および討論が行われました。日本側からは研究者、実務者、大学院生、学部学生が参加し、活発な意見交換が行われました。



基礎問題プロジェクト

お茶の水女子大学グローバル COE では、「国際的格差」「教育・社会的格差」「養育環境格差」の3つの研究領域間の相互理解と連携を深めるため、「基礎問題プロジェクト」研究会を実施しています。2011年度に行われた5回の研究会のうち、2011年末までに行われた第8回から第10回について報告します。

第8回研究会「格差是正に寄与する全校型支援の実際」

日時：2011年7月30日（土）第1部 13:00～15:30 第2部 16:00～18:00

会場：第1部 茗溪会館 4F 筑波 第2部 お茶の水女子大学本館 125号室

参加者：46名

アメリカにおけるスクールカウンセラー養成や役割刷新の動き（Transforming School Counseling Initiative）において精力的に活動されているニューヨーク工科大学のキャロル・ダヒヤ先生をお招きして、セミナーを開催しました。第1部では、問題を抱えた子どもを支えるにあたって、学校カウンセラーが他のメンバー（校長・教師・保護者・地域の関係者など）と協働していくことの重要性が説かれ、課

題を解決するためにチームで動くことの利点、チームメンバー間の関係性のあり方などが、参加者によるアクティビティを交えながら説明されました。第2部では、参加者が関わっている学校（小・中・高等学校）別にグループを組み、「いじめ問題に対処する」「生徒のストレスを減らし進学率を向上させる」という課題について、解決の方策をそれぞれが検討するというワークショップを行いました。現役



の学校カウンセラー、教師、大学院生など多彩な参加者がグループとなって具体的な解決方法について意見を交換し合う、貴重な機会となりました。

第9回研究会「教育格差是正における保育・幼児教育の役割」

日時：2011年10月25日（火） 15:00～17:00

会場：お茶の水女子大学本館 135号室

参加者：50名

第9回研究会では、まず本学の小玉亮子准教授よりヨーロッパにおける保育・幼児教育について、PISAショック以降、ドイツにおいて幼児教育への関心が高まっていること、ドイツの保育には様々な境界線があり、それをいかに超えるかが課題になっていることなどが報告されました。次に、浜野隆准教授から発展途上国における保育・幼児教育の現状と課題について、開発や人権の観点から幼児教育

に対する関心が生じていること、格差是正に向けて幼児教育への期待が高まっていることなどが、ベトナムでの事例を通じて報告されました。続いて、国立教育政策研究所の深堀聰子総括研究官より、米国における教育格差と就学前プログラムの紹介とともに、2つの発表に対する質問・コメントがなされました。上智大学の北村友人准教授からは、モスクワで開催された世界幼児教育会議での議論が紹



介され、幼児教育をめぐる世界的な潮流をふまえた質問・コメントがなされました。学内外からの多くの参加者から活発に議論が提起され、充実した研究会となりました。

第10回研究会「養育環境の現代的課題——“子ども・子育て新システム”をめぐって」

日時：2011年10月30日（日） 16:00～18:00

会場：お茶の水女子大学本館 103号室

参加者：30名

本学「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」との共催で、「子ども・子育て新システム」を中心テーマとしたセミナーを開催しました。内閣府と厚生労働省で「子ども・子育て新システム」の策定に関わってこられた岡本利久氏の基調講演では、これまでの議論の経緯、保育の量的拡大、選択肢の拡大という方向性、および幼保一体化による「こども園給付」を軸とした制度の仕組みが示され

ました。後半では、本学の永瀬伸子教授から、働く女性にかかる負担の大きさから仕事と子育ての両立が進んでいない現状と、長時間労働や性別役割分業の早期の見直しの必要性が指摘され、菅原すみ教授からは、家庭内外の養育環境の質が子どものよりよい育ちと相関すること、育児の担い手が誰であるかよりケアの良質さを重視すべきであることが報告されました。平岡公一教授からは、社会政策



研究の立場から「子ども・子育て新システム」の位置づけが行われ、今後モニタリングと評価を組み込んだ制度設計が必要であるとの提言がなされました。

「英語によるプレゼンテーションセミナー」

2011年2月16日(水)に、主として博士後期課程の学生を対象に、本学の垂見裕子特任助教による「英語によるプレゼンテーションセミナー」を開催しました。前半では、海外での学会発表の意義、準備、プレゼンテーションの技術、および英語での表現についての解説が行われました。後半では、本学大学院生2名により、学会でのポスター発表・口頭発表の準備や

発表、成果について、また申し込みから発表に至るまでの心情や意識の変化などの体験が具体的に語られ、実際に使用したポスターの掲示や英語での口頭発表の実演も行われました。26名の参加者からは準備や発表方法についての質問が寄せられただけでなく、不安や期待といった心情についても語り合う機会となりました。



「英語による論文セミナー」

2011年10月5日(水)に、主として博士後期課程の学生を対象に、本学の石井クンツ昌子教授による「英語による論文セミナー」を開催しました。前半では、論文執筆の留意点や英語表現の注意事項について説明があり、事前に提出された英文要旨の問題点が分析された後、参加者は小グループに分かれて、要旨のピアレビューを行いました。後半では、学会などの発表の場における心構えやスキル(効

果的な発表・資料作成・質疑応答への対応)、英語研究論文の投稿・掲載までの流れが紹介され、最後に国際的な発表や投稿に取り組むことの重要性が述べられました。英語で論文を執筆するための環境作りや正確な英語表現などの具体例は、受講生にとって特に有益だったとのコメントが寄せられました。参加者は15名でした。



公募研究報告会

公募研究は、計画を審査する形で採択された研究に対して50万円を上限に補助金を交付する研究助成制度です。公募研究の実施者は、研究終了時に研究報告会にて成果を口頭発表し、さらに成果論文を執筆します。2010年度の公募研究(23名)については2011年4月4日(月)に、2011年度(21名)については2011年12月19日(月)に、報告会を開催しました。

いずれも人数が多いため、1人10分という短い時間配分でしたが、それぞれ発表の方法を工夫したもので、充実した時間となりました。心理学・社会学・教育学という異なる領域の多数の研究者が、「格差」という視点を共有しつつ、それぞれ重要な問題を取り上げて研究を積み重ねている様子が伺えました。



リサーチ・アシスタント(RA)研究報告会

RA研究報告会は2011年11月18日(金)と11月21日(月)に開催され、2011年度RA35名のうち、公募研究にも採択された15名を除く20名が研究の経過を報告しました(勤務等のため3名がレジュメのみによる報告)。RAの所属する人間発達科学専攻は心理学・社会学・教育学(保育学を含む)の3領域から構成されており、研究報告会でのコメントは報告者とは異なる領域のRAが担当しまし

た。他の領域の視点からなされるコメントはしばしば研究の本質を問うものとなり、フロアーからも多くの質疑があって、報告会全体が盛り上がりました。参加者からは、「多様な視点の研究発表があり、それらの研究がサポートされる本プログラムの意義を実感できた」「別の博士の学生がどのような研究に取り組んでいるのかを聞いて、自分自身の励みになった」といった感想が寄せられました。



イベント・活動一覧（2007～2011年度）

【2007年度】

- 2007年10月1日(月) 第1回・第2回英語による論文セミナー（21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」
10月15日(月) との共催)
- 2007年12月8日(土) 国際シンポジウム「基礎教育における男女平等を考える——アジアの教育政策を見つめて」（お茶の水女子大学開発途上国女子教育センター・ジェンダー研究センター、ユネスコバンコク事務所、文部科学省との共催）
- 2007年12月22日(土) 第1回外部評価委員会
- 2007年12月25日(火) 国際セミナー「ユニセフによる子ども発達支援——発達の国際格差解消の観点から」
- 2008年1月10日(木) 国際セミナー「アジアにおける幼児教育の動向と課題——韓国とベトナム」
- 2008年1月13日(日) 第1回国際シンポジウム「健康の権利と責任——ヘルスケアをめぐる国際的動向」（お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」との共催）
- 2008年1月14日(月) 国際セミナー「初等教育における格差——ベトナムの事例」
- 2008年1月21日(月) 国際セミナー「アメリカからみた日本女性イメージの変化——経済発展は文化格差を解消したか」（お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」との共催）
- 2008年2月13日(水) 統計セミナー「SPSSを用いた心理学・教育学での分析」（21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」との共催）
- 2008年2月14日(木) 統計セミナー「STATAを用いた経済学・社会学での分析」（21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」との共催）
- 2008年2月14日(木) 講演会「ヨーロッパおよび世界における教育の挑戦」（文教育学部人間社会科学科教育科学講座との共催）

【2008年度】

- 2008年4月19日(土) 第2回東アジア<子ども学>交流プログラム国際シンポジウム「子どもの成長・発達と生活環境——
4月20日(日) 子ども学的アプローチ」（チャイルド・リサーチ・ネット、ベネッセコーポレーション、ベネッセ次世代育成研究所との共催）
- 2008年4月26日(土) 2007年度公募研究報告会
- 2008年5月25日(日) 公開シンポジウム「子どもの暮らしの安全・安心——命の教育へ」（お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」、附属校園連絡委員会との共催）
- 2008年6月14日(土) 公開講座「格差とはなにか」
6月21日(土)
6月28日(土)
- 2008年6月16日(月) 第1回発達追跡研究のための多変量解析セミナー「回帰分析とその関連手法」
6月23日(月)
6月30日(月)
- 2008年9月16日(火) 2008年度第1回RA研究報告会
- 2008年9月30日(火) 国際セミナー「中西部アフリカにおける幼児教育の現状と課題」（お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催）
10月1日(水)
- 2008年10月14日(火) 国際セミナー「中西部アフリカ幼児教育アクションプラン」（お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催）
- 2008年10月16日(木) JELS（青少年期から成人期への移行についての追跡的研究）セミナー「青少年期の移行の危機と家庭生活——JELS2006、2003のデータから」
- 2008年11月14日(金) 基礎問題プロジェクト第1回研究会「国際教育開発の動向と課題」
- 2008年11月15日(土) 国際セミナー「メディア暴力と攻撃的パーソナリティの発達」（日本パーソナリティ心理学会第17回大会との共催）
- 2008年11月18日(火) 講演会「一般的攻撃モデルと、拡大する暴力の連鎖」
- 2008年11月28日(金) 国際セミナー「モンゴルにおける保育改革と子ども発達支援」
- 2008年12月14日(日) 第2回国際シンポジウム「東アジアにおける学力格差の現状と政策課題」

2008年12月15日(月) ～12月22日(月)	国際セミナー「日韓幼児教育研修セミナー」
2008年12月21日(日)	基礎問題プロジェクト第2回研究会「社会的排除／包摂をめぐる——格差是正をめざす理論と政策」(お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」との共催)
2009年1月19日(月)	JELS セミナー「青年期への社会的接近——移行・文化・階層」
2009年1月19日(月) 1月21日(水) 1月23日(金)	第2回発達追跡研究のための多変量解析セミナー「縦断データの解析——潜在成長曲線分析」
2009年1月26日(月)	JELS セミナー「学校教育を通じた若者のキャリア形成支援」(お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」との共催)
2009年2月2日(月) 2月9日(月)	第1回英語によるプレゼンテーションセミナー
2009年2月24日(火)	2008年度第2回RA研究報告会
2009年3月5日(木)	2008年度特任教員研究報告会
2009年3月17日(火)	公開講演会「暴力とジェンダー」(千葉大学科研究費共同研究「男女共同参画社会における男性の『社会化』と暴力性」、お茶の水女子大学ジェンダー研究センターとの共催)
【2009年度】	
2009年4月12日(日)	基礎問題プロジェクト第3回研究会「乳児期から青年期までの子どものクオリティ・オブ・ライフ」
2009年4月25日(土)	2008年度公募研究報告会
2009年4月25日(土)	研究会「戦後教育実践史におけるシティズンシップ教育実践の意義を考える」(日本教育学会(東京地区)との共催)
2009年4月30日(木)	講演会「幼児期の言葉の発達の連続性を理解する」
2009年6月1日(月)	国際セミナー「ベトナムにおける幼児教育の格差」
2009年6月9日(火)	国際セミナー「教育評価の新たな取り組み——学校・生徒に関する調査結果を、どのように学校教育の方針や学習環境の改善に反映させるか」
2009年6月11日(木)	統計セミナー「階層線形モデル(HLM)入門ワークショップ」
2009年6月15日(月)	講演会「ジェンダーおよび格差是正の点から見たフランス家族政策」(お茶の水女子大学近未来の課題解決を目指した実証的社会科学研究推進事業「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」との共催)
2009年9月11日(金)	第4回東アジア“子ども学”交流プログラム国際シンポジウム「言葉の発達と脳科学——東アジアでの研究と実践」(チャイルド・リサーチ・ネットとの共催)
2009年9月12日(土) 9月13日(日)	第6回子ども学会議「子ども・環境・脳科学」(日本子ども学会との共催)
2009年10月1日(木)	2009年度第1回RA研究報告会
2009年10月2日(金)	国際セミナー「中西部アフリカの子ども・幼児教育にみる格差」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
2009年10月17日(土)	第3回国際シンポジウム「子どもの遊び・学びの進化と深化——文化・社会・歴史の制約を解き明かす」
2009年10月20日(火)	国際セミナー「中西部アフリカ幼児教育改善アクションプラン」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
2010年1月8日(金)	JELS セミナー「国際比較からみる学力調査——国際調査と国別調査」(お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」との共催)
2010年1月10日(日)	基礎問題プロジェクト第4回研究会「子どものクオリティ・オブ・ライフの測定と規定因」
2010年1月13日(水)	基礎問題プロジェクト第5回研究会「子どもの貧困をめぐる」
2010年1月22日(金)	JELS セミナー「子どものキャリア形成——文化・学力・進路」(お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」との共催)
2010年2月12日(金)	2009年度第2回RA研究報告会
2010年2月20日(土)	第2回外部評価委員会
2010年2月23日(火)	第3回英語による論文セミナー
2010年2月24日(水)	JELS セミナー「激動する中国の大学におけるキャリア教育」(お茶の水女子大学特別教育研究経費事業「コミュニケーション・システムの開発によるリスク社会への対応」との共催)
2010年3月11日(木)	2009年度特任教員研究報告会

【2010年度】

- 2010年4月12日(月) 2009年度公募研究報告会
- 2010年5月13日(木) 第3回発達追跡研究のための多変量解析セミナー「縦断データの解析——潜在クラス分析」
- 2010年6月16日(水) 基礎問題プロジェクト第6回研究会「言語発達の研究方法論再考」
- 2010年9月4日(土) 基礎問題プロジェクト第7回研究会シンポジウム「総合的な子ども政策の展望」
- 2010年9月21日(火) 講演会「生涯学習における能力(コンピテンシー)と評価」
- 2010年9月27日(月) 2010年第1回RA研究報告会
- 2010年9月29日(水) 国際セミナー「ブルキナファソ・マリにおけるEarly Childhood Development (ECD)と格差」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
- 2010年9月30日(木) 国際セミナー「セネガル・カメルーンにおけるEarly Childhood Development (ECD)と格差」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
- 2010年10月5日(火) 第4回国際シンポジウム「子どもの発達と養育環境——ペアレンティングと子どものQOL」
- 2010年10月16日(土) 講演会「グローバリゼーション——成人教育・高等教育への新しい挑戦と機会」(国立教育政策研究所との共催)
- 2010年10月19日(火) 国際セミナー「アフリカにおける子ども発達支援に向けて——中西部アフリカ4カ国の取り組み」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
- 2010年11月15日(月) JELS講演会「学校教育を補完する学習機会の保障——アメリカ・オークランド市教育委員会の教育格差解消に向けた試み」(お茶の水女子大学文部科学省特別経費プロジェクト「附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究」、科研費プロジェクト「保育職資格の更新制・上進制導入に伴う養成課題」との共催)
- 2011年2月7日(月) 2010年度第2回RA研究会
- 2011年2月15日(火) 2010年度特任教員研究報告会
- 2011年2月16日(水) 第2回英語によるプレゼンテーションセミナー
- 2011年2月24日(木) JELSシンポジウム「親の教育戦略——香港・中国・日本」

【2011年度】

- 2011年4月4日(月) 2010年度公募研究報告会
- 2011年7月30日(土) 基礎問題プロジェクト第8回研究会「格差防止に寄与する全校型支援の実際」
- 2011年9月25日(日) 第5回国際シンポジウム「学力格差と教育政策——香港・上海・日本のPISA結果から」(日本教育学会第63回大会との共催)
- 2011年10月5日(水) 第4回英語による論文セミナー
- 2011年10月25日(火) 基礎問題プロジェクト第9回研究会「教育格差是正における保育・幼児教育の役割」
- 2011年10月30日(日) 基礎問題プロジェクト第10回研究会「養育環境の現代的課題——“子ども・子育て新システム”をめぐる」(お茶の水女子大学「ジェンダー・格差センシティブな働き方と生活の調和」との共催)
- 2011年11月18日(金) 2011年度第1回RA研究報告会
- 2011年11月21日(月) 2011年度第2回RA研究報告会
- 2011年11月30日(水) 国際セミナー「セネガル・マリにおける幼児教育政策と改革」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
- 2011年12月1日(木) 国際セミナー「カメルーンにおける幼児教育政策の動向」国際セミナー「ブルキナファソにおける幼児教育政策の課題」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
- 2011年12月19日(月) 2011年度公募研究報告会
- 2011年12月20日(火) 国際セミナー「中西部アフリカにおける幼児教育のゆくえ」(お茶の水女子大学グローバル協力センターとの共催)
- 2012年1月30日(月) 基礎問題プロジェクト第11回研究会「アジアの子どものQOL」
- 2012年2月15日(水) 基礎問題プロジェクト第12回研究会「韓国の福祉レジームと女性の社会権——保育・長期療養政策を中心に」(福祉学会との共催)
- 2012年2月17日(金) 2011年度特任教員研究報告会
- 2012年2月20日(月) JELSシンポジウム「上海における小中高生及び保護者調査の基礎報告」

成果出版物一覧 (2007～2011年度)

2007年度

- ・『カンボジアにおける幼児教育に関する調査報告書』(研究代表者: 浜野隆) 2008年2月、84頁。
- ・*Proceedings 01 Selected Papers* (英文モノグラフ) 2008年3月、151頁。
- ・*Proceedings 02 Seminars & Symposia* (セミナー・シンポジウム報告書) 2008年3月、134頁。
- ・『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS第11集 Aエリア Wave2 調査報告』(研究代表者: 耳塚寛明) 2008年3月、243頁。
- ・『社会人女性大学院生はどのような学びを求めているか——質問紙調査に向けて』(研究代表者: 三輪建二) 2008年3月、127頁。
- ・『ニュースレター第1号』2008年3月、4頁。

2008年度

- ・*Proceedings 03 Grant-in-Aid Research Awards* (公募研究成果論文集) 2008年8月、112頁。
- ・『ニュースレター第2号』2008年9月、4頁。
- ・*Proceedings 04 Grant-in-Aid Research Awards* (公募研究成果論文集) 2009年3月、88頁。
- ・*Proceedings 05 Selected Papers* (英文モノグラフ) 2009年3月、144頁。
- ・*Proceedings 06 Seminars & Symposia* (セミナー・シンポジウム報告書) 2009年3月、198頁。
- ・*Proceedings 07 Disciplinary Linkage Project* (基礎問題プロジェクト報告書) 2009年3月、85頁。
- ・『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS第12集 海外学会発表レポートおよびCエリア Wave2 調査報告』(研究代表者: 耳塚寛明) 2009年3月、201頁。
- ・『社会的格差の諸問題 平成19-20年度成果報告・研究資料集』(研究代表者: 平岡公一) 2009年3月、156頁。
- ・『外見に関する行動・意識と格差との関係——首都圏男女の調査報告書』(研究代表者: 坂本佳鶴恵) 2009年3月、131頁。
- ・『資料集 戦後改革による新制高等学校の設置と格差構造の再編成——長野県における被服教育の展開』(研究代表者: 米田俊彦) 2009年3月、218頁。
- ・『ニュースレター第3号』2009年3月、4頁。

2009年度

- ・『戦後教育実践史におけるシティズンシップ教育実践の意義を考える』(研究代表者: 小玉重夫) 2009年6月、60頁。
- ・*Proceedings 08 Grant-in-Aid Research Awards* (公募研究成果論文集) 2009年7月、184頁。
- ・『幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的な要因の影響——日韓中越蒙国際比較調査 お茶の水女子大学・ベネッセ共同研究 2008年日本調査報告』(研究代表者: 内田伸子) 2009年8月、199頁。
- ・『ニュースレター第4号』2009年9月、4頁。
- ・*Proceedings 09 Selected Papers* (英文モノグラフ) 2010年3月、110頁。
- ・*Proceedings 10 Seminars & Symposia* (セミナー・シンポジウム報告書) 2010年3月、177頁。
- ・*Proceedings 11 Disciplinary Linkage Project* (基礎問題プロジェクト報告書) 2010年3月、118頁。
- ・お茶大・ベネッセ共同研究報告書『幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的な要因の影響——日本(東京)・韓国(ソウル)・中国(上海)比較データブック』(研究代表者: 内田伸子) 2010年3月、62頁。
- ・『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究』(JELS第13集 細分析論文集(3)) (研究代表者: 耳塚寛明) 2010年3月、62頁。

- ・『幕末明治の女性 内藤ますの生涯とその教養形成過程——「駿河紀行」全文翻刻付』(研究代表者: 河田敦子) 2010年3月、71頁。
- ・『中国高等教育における職業への移行に関する調査——国公立大学キャリアセンターにおける聞き取りから』(研究代表者: 耳塚寛明) 2010年3月、133頁。
- ・『ニュースレター第5号』2010年3月、4頁。

2010年度

- ・*Proceedings 12 Grant-in-Aid Research Awards* (公募研究成果論文集) 2010年7月、116頁。
- ・『ニュースレター第6号』2010年9月、4頁。
- ・『新制高等学校定時制課程充足にかかわる長野県の学校沿革史の記述——青年学校と新制高校定時制課程との連続性をめぐって』(研究代表者: 米田俊彦) 2010年12月、115頁。
- ・*Proceedings 13 Selected Papers* (英文モノグラフ) 2011年3月、159頁。
- ・*Proceedings 14 Seminars & Symposia* (セミナー・シンポジウム報告書) 2011年3月、70頁。
- ・*Proceedings 15 Disciplinary Linkage Project* (基礎問題プロジェクト報告書) 2011年3月、50頁。
- ・『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS第14集 Aエリア Wave3 調査報告』(研究代表者: 耳塚寛明) 2011年3月、119頁。
- ・お茶大・ベネッセ共同研究報告書 No. 11『幼児期から学力格差は始まるか——しつけスタイルは経済格差要因を凌駕しうるか 児童期追跡調査 日本(東京)・韓国(ソウル)・中国(上海)比較データブック』(研究代表者: 内田伸子) 2011年3月、80頁。
- ・『ニュースレター第7号』2011年3月、4頁。

2011年度

- ・*Proceedings 16 Grant-in-Aid Research Awards* (公募研究成果論文集) 2011年7月、206頁。
- ・『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究 JELS第15集 香港調査とCエリア Wave3 調査報告』(研究代表者: 耳塚寛明) 2012年2月。
- ・お茶大・ベネッセ共同研究報告書Ⅲ 幼児のリテラシー習得に及ぼす社会文化的要因の影響——保護者調査・保育者調査——日韓中越蒙5カ国比較 (研究代表者: 内田伸子) 2011年12月、81頁。
- ・*Proceedings 17 Selected Papers* (英文モノグラフ) 2012年3月、128頁。
- ・*Proceedings 18 Seminars & Symposia* (セミナー・シンポジウム報告書) 2012年3月、77頁。
- ・*Proceedings 19 Disciplinary Linkage Project* (基礎問題プロジェクト報告書) 2012年3月、100頁。
- ・*Proceedings 20 Grant-in-Aid Research Awards* (公募研究成果論文集) 2012年3月、212頁。
- ・『ニュースレター第8号』2012年3月、8頁。

2012年4月以降刊行予定

- ・『子ども期の養育環境とクオリティ・オブ・ライフ』(叢書 格差センシティブな人間発達科学第1巻、菅原ますみ編)
- ・『世界の子育て格差——子どもの貧困は超えられるか』(叢書 格差センシティブな人間発達科学第2巻、内田伸子・浜野隆編)
- ・『学力格差に挑む』(叢書 格差センシティブな人間発達科学第3巻、耳塚寛明編)
- ・『格差を超え公正な社会へ』(叢書 格差センシティブな人間発達科学第4巻、平岡公一・三輪建二・米田俊彦編)

編集後記

昨年(2011年)の東日本大地震のため、研究会やセミナー等が延期になり、9月発行予定のニュースレターの内容は今回のニュースレター8号と一緒に掲載することになりました。今年度は本プログラムの最終年となりますので、5年間の事業のイベント内容と成果物の一覧を掲載したほか、今年度上・下半期で実施した本プログラムの3つの研究領域間の相互理解と連携を深めるための「基礎問題プロジェクト」研究会、国際社会における格差問題を取り上げた国際シンポジウム、国際セミナーを中心に紹介しました。最後にこの場を借りて編集をサポートして下さった事業推進担当の先生方、寄稿者の先生方、事務局の猪股様、岡田様、研究協力チームの皆様、西浜様、沢代様、広報委員会の皆様に深く感謝します。

編集者 広報委員会委員 李 美静

発行 お茶の水女子大学 グローバル COE プログラム
「格差センシティブな人間発達科学の創成」
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1 文教1号館 103
グローバル COE 事務局 Tel/Fax : 03-5978-5247
E-mail : jimug-coe@cc.ocha.ac.jp
URL : <http://ocha-gaps-gcoe.com/>